



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織  
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 93) uniwish20号 (2016年2月)  
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号  
(電話・FAX) 0952-28-2077  
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00  
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp  
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>  
FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



## シリア危機5年

### 120以上の人道機関が共同声明発表 紛争終結のために、世界の声を

【2016年1月21日 ニューヨーク／東京発】

世界で活動する国連機関・人道支援機関は、5年にわたって多くの一般市民を苦しめているシリア危機を終わらせるために、国際社会が声をあげることを呼びかける共同声明を発表しました。この声明には、ユニセフ事務局長 アンソニー・レークや日本ユニセフ協会会長 赤松良子をはじめ、各機関・組織の代表者120人以上が賛同し、署名しています。



○ UNICEF/UN06843/Sanadiki  
ホムスの非公式居住区で暮らす7歳の女の子と11歳の兄。

声明では、まもなく6年目を迎えようとしているシリア危機によって、シリア国内に残る1,350万人、国外への避難を余儀なくされた460万人の命や未来が危機に瀕している状況をあらためて強調し、シリアの悲劇を止めるために各国政府のみならず世界の市民一人ひとりが声をあげることを強く求めています。本声明は、各機関がインターネットやソーシャルメディアなどを通じて発信し、世界に広げていきます。

\*\*\*\*\*

### 共同声明：シリアの苦しみを終わらせよう

3年前、国連の人道支援機関のリーダーたちは、シリア紛争を終結し得る立場にある関係者に向けて、緊急の呼びかけをしました。流血や苦しみはもう十分だ、と。それは、3年前のことでした。

現在、この悲惨な紛争は6年目に入ろうとしています。血は流れ続け、人々の苦しみは増えています。そこで今日、人道支援を行う組織および国連機関のリーダーたちは、各国政府のみならず、世界の市民である皆さまに呼びかけることに致しました。

この殺りくを終わらせるよう、皆さまの声を上げてください。

すべての紛争当事者に対し、停戦に合意し、和平へ向けた道を歩むことを、共に要請していただきたいのです。

今まで以上に、世界は、団結して暴力の終結を求める人々の声を必要としています。なぜならば、この紛争とその結果は、我々すべてに影響を与えるからです。

それは、愛する人や生活の糧を失い、家を追われ、包囲下の町で絶望的な状況に置かれたシリアの人々に影響を与えています。今日、シリア国内には、人道支援を必要とする人々が1,350万人います。これはただの数字ではありません。命や未来が危機に瀕している、一人ひとりの人間が、1,350万人いるのです。



○ UNICEF/UN07159/Sanadiki  
ダマスカス郊外のマダヤで、町を出る許可を待つ家族。

また、より良い未来に向けての選択肢がほとんどない中、庇護を求め外国に向けて危険な旅路に就かざるをえない人々も影響を受けています。この紛争により、シリアの近隣諸国や遠方の国々へと、460万人もが避難を余儀なくされました。

子ども達や若い世代は、教育の機会を奪われ、恐ろしい体験で心に深く傷を負っています。自分たちの未来が暴力のみで形成されていくのを日々目にしている彼らもまた、紛争の影響を受けています。

紛争の暴力的な波紋は、シリアから遠く離れた場所にも及んでいます。自らの家の近所の街や職場、レストランでそのような暴力を目にすることとなった人々にも影響は及んでいます。

また、紛争により、明確に、あるいは不明確な形で、経済的な安泰が脅かされている世界の人々もまた、影響を受けています。

この苦しみを終わらせることができる立場にある者は、ただちに行動をとらなければなりません。紛争が外交的に解決されるまで、例えば以下のような措置が必要です。

- ・人道支援機関がシリア国内の人々へ緊急支援物資を届けられるよう、無制限および持続的なアクセスを与えること。
- ・市民への食糧やその他緊急支援物資の配布、予防接種や公衆衛生活動の実施、学校教育の再開のための人道目的の休戦、および無条件かつ監視を伴う停戦。
- ・学校・病院・給水施設などを守るため、生活インフラ施設への攻撃の停止。
- ・すべての市民の移動の自由確保と、すべての紛争当事者によるすべての包囲作戦の即刻解除。

上記は、意思さえあれば、実施を妨げる正当な事由の存在しない現実的な措置です。

普遍的に共有される人道の名において、すでに多大な苦しみを味わった数百万人もの無事の人々の為に、命や未来が危機に瀕している数百万人もの人々の為に、直ちに行動を取るよう求めます。  
直ちにです。

【資料提供：日本ユニセフ協会】



## シリア緊急募金 第187報・189報

### 届けられた人道支援 【2016年1月11日アンマン 1月15日 ダマスカス 発】



○ UNICEF/Morooka  
ワアル地区の建設途中のアパートの地下にある学校で勉強する子どもたち。

シリア・ホムスの郊外にあるヒムス市ワアル地区が、再びニュースで大きく取り上げられました。数週間前、約2年間立ち入ることができなかったワアル地区で合意が結ばれ、銃を置き、人道支援団体が支援を届けることが可能になったのです。

ユニセフや人道支援団体がワアルの人々へ必要不可欠な物資を届けることを認める合意が結ばれたのです。人道支援を切に必要とする約6万人の人々に支援を届けるべく、食糧や小麦粉、子ども用の高カロリービスケット、衛生キット、医療物資、通学用かばん、冬服を積んだトラックがワアルへと向かいました。

ユニセフは他機関と共同で、14日、シリア国内の包囲地域への2度目の人道支援物資輸送を実施。紛争に関わる複数の異なる勢力が、包囲という手段を闘いの駆け引きとして使い、子どもたちや罪なき市民から、命を守るために必要な物資や保健などのサービスを奪っているのです。

マダヤへの支援とは別に、ユニセフは12日、10台のトラックに積み込んだ支援物資を、包囲地域であるフアとケフラヤに取り残されている6,000人の子どもたちに届けました。

ユニセフは、紛争当事者全てに対し、シリアの市や町の包囲を解き、保健や栄養などの人道ニーズ調査や、現地での医療及び栄養治療ケアの提供、及び、危機的状況にある女性や子どもの緊急医療救助を可能にするための、無制限で無条件かつ継続的な人道支援を認めるよう、繰り返し求めます。

【資料提供：日本ユニセフ協会】



○ UNICEF/UN07491/EI Ouerchefani  
ダマスカス近郊のユニセフの物資倉庫で、マダヤなどに向けて輸送される支援物資が積み込まれている様子。





- 11月11日（水） イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加 （イオン佐賀大和店）
- 11月11日（水） / 11月18日（水） ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク  
「平和について考えよう」  
西郷小学校（ゆめ組、ほし組）
- 11月23日（月） 「レッドトルネード」ユニセフ募金活動  
第40回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場  
（神崎市神埼中央公園体育館）
- 12月2日（水） ユニセフ出前授業  
「世界の子どもたちは、今」  
佐賀県立小城高等学校PTA主催講演会 （小城市 小城高等学校黄城会館）
- 12月6日（日） ハンド・イン・ハンド  
・イオンモール佐賀大和店 ・ホームワイド佐賀大和店  
・佐賀玉屋前 ・コープさが新栄店
- 12月13日（日） ハンド・イン・ハンド  
・ゆめタウン佐賀店 ・イオンスーパーセンター佐賀店  
・イオン上峰ショッピングセンター
- 12月20日（日） ハンド・イン・ハンド  
・スーパーモリナガ鹿島店
- 12月21日（月） シリア緊急募金贈呈  
弘学館中学校・高等学校生徒会（事務所）
- 1月11日（月） イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加 （イオン佐賀大和店）
- 1月14日（木） ユニセフ学習  
「世界の子どもとわたしたちにできること」  
佐賀県立ろう学校中学部（事務所）
- 1月21日（木） ユニセフ出前授業  
福岡県大木町立大溝小学校6年生  
総合的学習の時間「自分にできるボランティア」
- 1月23日（土） 「レッドトルネード」シリア緊急募金活動  
第40回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場  
（神崎市神埼中央公園体育館）





## 活動詳細



### 第37回ユニセフ ハンド・イン・ハンド

**2015年度ハンド・イン・ハンドは、  
総額3,162,015円でした。  
たくさんのご協力  
まことにありがとうございました!!!!**



(日本ユニセフ協会HPより)

|            |                                                     |
|------------|-----------------------------------------------------|
| 12月6日 (日)  | ・イオンモール佐賀大和店<br>・ホームワイド佐賀大和店<br>・佐賀玉屋前<br>・コープさが新栄店 |
| 12月13日 (日) | ・ゆめタウン佐賀店<br>・イオンスーパーセンター佐賀店<br>・イオン上峰ショッピングセンター    |
| 12月20日 (月) | ・スーパーモリナガ鹿島店                                        |

☆2015年度のハンド・イン・ハンド街頭募金活動は3日間、8会場で実施しました。例年、北風の吹く寒いなかでの活動でしたが、年末は暖かくて「カイロ」の準備も必要ありませんでした。

☆2015年のボランティアさんの特徴としては高校生の参加がたくさんあったことでした。どの会場にも高校生の爽やかな元気な声が響きました。

☆就学前の小さな子どもたちからご高齢の方まで幅広い年代のボランティア協力で、総勢224名にもものぼるご参加がありました。ボランティアの皆様は「ユニセフ募金にご協力をお願いしま〜す!」「2円で一人の子どもに一年分のビタミンAをおくることができます!」「ありがとうございます!」と元気な声で協力を呼びかけました。

ボランティアの皆様の熱い思いはお客様の心に届き、たくさんのご協力をいただきました。ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちを寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、まことにありがとうございました。

☆11月と12月の2ヶ月間にわたって実施した『第37回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン』では、個人・学校・団体・企業等々、多くの皆様方からたくさんのご支援をいただき、募金総額は、3,162,015円にもなりました。ここに感謝を込めてご報告申し上げます。まことにありがとうございました。

☆ご協力いただいた団体・企業の皆様（順不同 ※個人の方のお名前は控えさせていただきます）

#### ○ボランティア協力をしてくださった皆様

佐賀商業高等学校様 材木町子ども会様 田中グループ様 高志館高等学校様  
上峰小学校様 致遠館高等学校様 ボーイスカウト佐賀第5団様 佐賀清和高等学校様  
小城高等学校様 佐賀北高等学校様 三養基高等学校様 神埼清明高等学校様  
鳥栖商業高等学校様 矢ケ部小学校様 柳川市教育委員会様 ボーイスカウト鹿島第一団様  
浄土真宗本願寺派少年連盟様

#### ○会場をご提供くださった企業様

イオンモール佐賀大和店様 ホームワイド佐賀大和店様 佐賀玉屋様 コープさが新栄店様  
ゆめタウン佐賀店様 イオン上峰ショッピングセンター様 イオンスーパーセンター佐賀店様  
スーパーモリナガ鹿島店様



# ☆☆☆ 各会場風景 ☆☆☆



12/6 イオンモール佐賀大和店



12/13 ゆめタウン佐賀店



12/6 佐賀玉屋前



12/13 イオン上峰ショッピングセンター



12/6 コープさが新栄店



12/13 イオンスーパーセンター佐賀店



12/20 スーパーモリナガ鹿島店







# ユニセフって なあに？



## ユニセフの活動

ユニセフは世界の子どもたちが生存し健やかに成長できるよう、他の政府機関や各国政府、NGOなどと協力しながら活動を行っています。

今回は「栄養」についてご紹介します。

## 子どもの未来は「栄養」がにぎっている

栄養不良は食べ物が不足していることだと思われがちですが、単に量が不足しているということではなく、健康に育つための十分な栄養が足りていないことを「栄養不良」といいます。栄養不良の子どもは健康に育つことができないだけでなく、病気にかかりやすくなったり、また病気が治りにくい原因になったりもします。年間590万人も失われている幼い命。そのうち半数近くの死に栄養不良が関わっています。

## 「1000日間の栄養支援」で子どもたちを守る！

胎児の時から栄養が足りず、低体重で生まれた赤ちゃんは、生まれてすぐに命の危険にさらされます。さらに、身体の基礎がつくられる胎児期から2歳までに栄養が不足すると、病気にかかりやすくなり、下痢や肺炎で死に至る割合も高くなります。この重大な問題は「発育阻害」とよばれ、世界で1億6,200万人もの子どもたちを苦しめています。

ユニセフは、胎児期から2歳までの最も大切な時期に、赤ちゃんが栄養不良に陥らないよう「1,000日間の栄養支援」に力を注いでいます。



栄養不良を見逃さない！  
定期的に体重などを測定して、  
栄養不良の子どもを早期発見、  
栄養補助食で治療します。  
適切な離乳食の与え方など、  
栄養や衛生の知識を広める保健員  
を育てることも重要です。



命のしずく…ビタミンA

### 急性栄養不良と闘う ～プランピー・ナッツ～



© UNICEF Regional Office  
for West and Central Africa

簡単に言うと「栄養治療食」です。これは栄養不良の子どもたちに提供する食べ物です。ピーナッツバターのようなもので、アルミの袋に入っています。袋をちぎれば、すぐに食べられるところがミソです。ほかの容器に溶かす必要もなく、そのまま口で吸い出して食べることができます。

栄養不良の問題は深刻で、人々は「瀕死の状態」にならないと子どもを病院に担ぎ込みません。その前段階で、子どもの命を守るにはこうした食品がとても役に立ちます。プランピー・ナッツは、水もいらぬし、監視する人も必要ないので、「家」で処方することができます。栄養補給センターや保健センターが遠くても、「家」や「コミュニティ」で、（瀕死の状態になる前に）手を打つことができるのです。「コミュニティ」で「何とかできる」。これが、最近の支援の方法となっています。どこかにでかけなくても、コミュニティの中で、うまく問題解決できれば、それだけ子どもたちの命は助かるのです。

※佐賀県ユニセフ協会では栄養不良を見逃さないための体重計、上腕測定テープや栄養不良を改善するためのビタミンA、プランピー・ナッツなどを展示しています。ご覧になりたい方は事務所までご一報を。



## ご支援 ありがとうございます

佐賀ユーモア協会様 ひらまつ病院様 佐賀リハビリテーション病院様 内田整体院様  
矢山クリニック様 弘学館中学校高等学校様 トヨタ紡織九州(株)レッドトルネード様  
多布施クリニック様 栗原内科消化器科医院様 いちはら耳鼻咽喉科クリニック様  
ぎょうざ屋様 恵比寿鍼灸整骨院様 みねまつ歯科様 ドゥース様 三瀬そば様  
イエローハットモンテ太陽本庄店様 サンシャレー様 いっせい麺処様 東洋館様  
西国御領風羅坊様 (株)北島様 えんぴつ館様 村岡屋卸本町店様 村岡屋駅南店様  
佐賀空港ターミナル様 New・モア様 レストランカンフォーラ様 (株)モトシマ様  
母子草様 山小屋ラーメン南佐賀店様 アルタ開成店様 アルタ高木瀬店様  
菖蒲ご膳様 ガイルス様 れすとらん志乃県庁店様 手打ちうどんそば夢心様  
ホテルニューオータニ佐賀様 ホテルマリターレ創世様 H&M Fido EXCEL様  
H&M EXCEL W. E. N. S様 Hair H&M EXCEL本庄店様 最所法律事務所様 (株)みうつか様  
佐賀ギター音楽院様 グランデはがくれ様 佐賀シール工業様 大和小学校様  
ファミリーマート大和尼寺店様 国府団地花みずき通り様 旅館あけぼの様  
佐賀女子高等学校様 佐賀市役所川副支所民生児童委員会協議会様 ようどう館佐賀校様  
ようどう館大和校様 バレエ&ビヨンド様 佐賀市文化会館様 TSUTAYA鍋島店様  
川崎自工様 団野法律事務所様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様  
ボーイスカウト佐賀第一団カブ隊ビーバー隊 ふくしま薬局通小路店様

唐津市民病院きたはた様 佐賀玉屋物流係様 西与賀公民館様 佐賀県国際交流協会様  
ヘルスランチあららぎ様 みねまつ歯科様 佐賀玉屋総務課様 循誘公民館様  
子どもの本屋ピピン様 第一生命労働組合佐賀支部様 さが市民活動プラザ様  
(株)山二商会様 すぎの子文庫様 副島病院様 (有)蓮池衛研工業様  
(株)ライフデザイン様 高齢者/障害/求職者雇用支援機構様 内堀忠次商店様  
佐賀県立ろう学校様 門司歯科医院様 佐賀市医師会立看護専門学校様  
佐賀大学医学部基礎研究棟様 JSA中核会佐賀支部様 (2015年11月13日～2016年2月2日)

☆いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、  
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



### 賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。

#### 日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

#### 賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。

☆詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。





## の仲間たち!



### アーティスト 井上信宏 さん (61歳)

一年前に美術教師を定年退職し、似顔絵を通して「東日本大震災の被災地をオートバイで訪問する」という自分の中の夢を叶えてまいりました。

お年寄りの方に完成した色紙をお渡しすると、とても喜んでくださり私も感動したのです。中には似顔絵を描くとお伝えすると、いそいそと赤い口紅をひいてくる女性もいました。

自分にとってのコミュニケーションツールの一つである似顔絵で笑顔をみることができた事がとても嬉しかったですね。

ユニセフとの出会いは城北中学校に赴任した2013年度です。人権・同和教育の担当になり、子どもたちが参加しながら学んでいける機会はないかと探していた時にたどり着きました。それまでは事務所が水ヶ江にある事も知りませんでしたね…。

さて、そもそも、なぜ被災地に行ったのか。あの日、2011年3月11日は勤務していた相知中学校（唐津市）で卒業式をしておりました。保護者の前の挨拶で「明日という日は約束された日ではないし、何が起こるかわかりません。子どもたちには一日一日を大切に生きてもらいたい」と話したのを覚えています。式が終わって安堵の中、一息ついた後、ニュースで目にしたあの信じられない光景…車が、家が濁った水に押し流されていたのです。私事です。息子の進学のため、翌日は東京へ参りました。ライフラインが、交通網が途絶えた大都会、震度3の余震が続く足元。東日本が受けたダメージは想像だにできませんでした。自分のできる事で被災地の方に元気を届けたい…と思うようになりました。

2015年9月2日から35日間のオートバイでの旅。福島市の乳幼児保育施設「こどものいえ そらまめ」を訪問。ここは原発から遠くありません。当時の揺れの話や今も放射線の恐怖におびえている話を聞きました。20m超の津波に襲われた「コミュニティスペース うみねこ」にも参りました。多くの友人を失った人、最愛の人を失った人…話を聞いて胸が熱くなりました。そして壊滅的な被害をうけた閑上地区。2時46分で止まった時計、生死を分けた歩道橋、犠牲になった14人の中学生の名前が刻まれた慰霊碑。福島第一原発圏内から見た町は、除染土ばかりが高く積まれ、なんともいえない虚しい風景です。のどかだった里山は影もありません。命、社会、経済、政治を考える上で必ず見ないといけない風景だと感じます。

これからの将来を担う子どもたちには、自分の価値観だけにとらわれず、たくさんものを見て、感じて、知ってほしい。それがボランティアなどの経験から生まれるものかもしれないし、何かに一生懸命打ち込むことで見えてくるものかもしれません。我々大人は、本当の意味で子どもたちに寄り添い、生きていく幸せを子どもたちと再確認していかなくてはならないと、改めて感じさせる35日間でした。

(取材：高原陽子)



2014年10月ユニセフチャリティー似顔絵

3月13日(日)13:30よりアバンセで井上信宏さんの「被災地三県似顔絵ボランティアの旅」の講演会を開催します。被災地の人々とのふれあい・見たこと・感じたことを伝えていただきます。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。詳しくは同封のチラシをご覧ください。